

6期目を迎えた「地震と火山と防災」は、南海トラフ地震と地形にまつわる防災をテーマに取り上げます。オンライン配信の利点を活かして日本中に本講座をお届けします。

「これだけは知ってほしい」情報を学ぶ講義に加え、東日本大震災を経験した語り部による「震災の経験と教訓が未来の命を守る力になる」講話があります。

自然災害が起きてから「もっと準備できたのに」と思うのでは遅いと皆さん気づいているはずですよ。専門家や経験者だからこそ伝えられる日ごろの備えの大切さを学び、防災行動へつなげるきっかけになればと思います。

講師プロフィール (敬称略)

第1回



講師

岩田 孝仁 (いわた たかよし)

静岡大学防災総合センター特任教授

静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門客員教授、日本災害情報学会会長も務める。専門は防災政策、地域防災。南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループメンバー、日本災害復興学会理事などを歴任。令和2年防災功労者内閣総理大臣表彰(内閣府)。元静岡県危機管理監。主著に「大規模自然災害の科学(編著)」(静岡新聞社)がある。



語り部

武山 ひかる (たけやま ひかる)

震災時は小学校4年生(現在大学3年生)。地震後、家族が学校と車で高台に避難したが、寒さのため自宅に戻ろうとしてしまい危険な状況に。自宅は全壊したため避難所から小学校に通った。震災後、多くの人が犠牲になったことを知り「事前に知識があれば」という思いと共に、あの時の子どもの気持ちも伝えている。2021年、震災関連の絵本『ひとりじゃない』を出版。

第2回



講師

馬場 俊孝 (ばば としたか)

徳島大学大学院社会産業理工学研究部
社会基盤デザイン系教授

地震調査委員会津波評価部会委員なども務める。専門は、津波防災。文部科学省「防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト」の課題「情報発信検討会(人材育成)」の幹事として「南海トラフ地震防災オンライン講座」を企画(<https://www.toshitaka-baba.com/jinzai>)。「科学で災害を減らす」をキーワードに研究を実施中。



語り部

高橋 正子 (たかはし しょうこ)

震災当時、海に近い自宅には高校生の息子と義理の母がいた。大津波警報が防災無線から聞こえるなか、家族とは連絡が取れず、道路は寸断され自宅に戻ることはできなかった。翌日、地区全体が津波に襲われ自宅も含め流出したことを知る。2016年より伝承活動に携わり、地区の裏山に逃げた息子の様子を絵本「なべのなった鐘」を使用しながら紹介している。

コーディネーター

楠城 一嘉 (なんじょう かずよし)

静岡県立大学グローバル地域センター
自然災害研究部門・特任教授

3.11メモリアルネットワークの語り部の講話を被災地石巻で聞き、南海トラフ地震など自然災害に対する日頃の備えの大切さを再確認するのに語り部の真実の声は役立つと気づきを得て本講座を企画した。主な著書に「地震と火山と防災のはなし(編著)」(成山堂書店)がある。



公益社団法人

**3.11メモリアル
ネットワーク**



公益社団法人

**3.11メモリアル
ネットワーク**

命をつなぐ 未来を拓く

2011年5月に宮城県石巻市で活動がスタート。フェーズの変化に伴い「震災支援の連携から、震災伝承の連携へ」活動をシフトさせながら、東日本大震災の経験と教訓を未来の世代へ伝え、甚大な被害を受けた岩手・宮城・福島の3県(広域)と地域(現場)の両方の視点を大切にしながら災害で命が失われない社会を目指す。